

# 平成 30 年度（2018 年度）事業報告書

## 本財団で行う研修及び研究

本財団は、設立以来専ら精神分析の研修、研究事業を実施することによりわが国の精神保健の向上のため努力し、相当の成果を上げている。本年度もこれらの方針を継続し、下記事業を計画した。医師等に対する精神分析及精神分析療法に関する研修事業として、通年セミナー13件うちワークショップ2件、単発セミナー6件（新規セミナー1件）、出版・広報事業1件を計画した。これ以外に本財団の趣旨に適いかつ有意義であると認められる要請があった場合、これを実施する。各セミナー全体の担当役員として教育研修委員長がこれにあたる。

### I. 研修事業

#### 1. 通年セミナー

##### (1) 小寺精神分析研究セミナー（第24期）

テーマ：「いま治療技法を考える」

概略：2017年度は精神分析が現在の私たちに関わる臨床状況でどのように生きる可能性があるのか、という主題に一年間、おつきあいいただきました。

2018年度は精神分析の内部にもう一度立ち戻って、精神分析の技法そのものの現在を取り上げ、フロイトの提出した原点についてのレビューの講義の後、設定、治療的交流、治療作用（心的変化の本質）という三つの側面について、それぞれ三人の現在の日本を代表する精神分析的臨床家の方々が考えておられることを、それぞれのスタイルで語っていただきました。

対象：精神分析に関心があり、臨床実践を行っており、守秘義務を負っている方。

開催期間：平成30年(2018年)5月～平成31年(2019年)3月、月1回

第3土曜日原則、午後7時～9時、全10回

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

参加人数：70名

運営方法：それぞれのテーマについて講師にお話しいただき、毎回指定討者をお願いしました。司会は5月以外は藤山直樹が担当（5月のみ岡田暁宜）

企画及び担当：藤山直樹

日時	講師	テーマ	討論者
5月19日	藤山直樹	原点としてのフロイトの技法	十川幸司
	<b>設定と治療構造</b>		
6月16日	木部則雄	子供の治療と治療設定	川畑友二
7月21日	奥寺 崇	セッティングということ（ウニコットの発想を生かす）	高野 晶
9月15日	相田信男	小此木の治療構造論とは・それが現在に投げかけるもの	白波瀬丈一郎
	<b>治療交流</b>		
10月20日	妙木浩之	現代の自我心理学における治療交流	大森智恵
11月17日	富樫公一	関係論的精神分析における治療的交流	池田暁史
12月15日	福本 修	現代クライン派における治療的交流	衛藤暢明
	<b>治療作用の本質</b>		
1月19日	北山 修	何が人を変え、どう人が変わるのか	小林要二
2月16日	岡田暁宜	何が人を変え、どう人が変わるのか	池田政俊
3月16日	松木邦裕	何が人を変え、どう人が変わるのか	庄司 剛

## (2) 体験グループセミナー (第24期)

目的：精神分析、力動的力動的精神療法の方向付けを基本とした、グループダイナミックスの学習、自己理解の深化をワークショップ形式のグループ体験を通して得る機会の提供を目的とする。

対象：精神分析セミナー、精神分析的精神分析的心理臨床セミナーならびにそれに相当するセミナーの受講者、修了者ですでに精神療法の経験をもつ方を優先する。  
基本を2年コースと考えているので原則として2年目の参加者を優先。

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：平成30年(2018年)5月～平成31年(2019年)3月、月1回  
第4金曜日原則、午後7時～8時30分、全10回

場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：23名

企画者：相田信男

担当委員：相田信男

## (3) グループ理論研究セミナー (第23期)

目的：精神分析、力動的力動的医学を基礎におくおく集団精神療法の臨床または指導者の養成を、理論的学習、とりわけ事例をめぐるスーパービジョンを通して達成することを目的とする。

対象：何らかの臨床グループあるいはトレーニング・グループなどに参加中の方を原則とする。  
ことに実際、グループ治療者、あるいはコンダクターなどを務めておられる守秘義務のある専門家。セミナーにおいてに事例を提出しスーパービジョンを受けることを希望される方を優先します。

講師：鈴木純一・相田信男

開催期間：平成30年(2018年)5月～平成31年(2019年)3月、月1回  
第2土曜日、午後2時～5時 全10回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：37名

企画者：相田信男

担当委員：相田信男

## (4) 力動的家族療法セミナー (第16期)

目的：力動的な家族療法を中心とした家族面接と評価の方法、ジェノグラムの書き方、介入技法など。

対象：個人精神療法に関する何らかの研修（セミナーあるいはスーパービジョンなど）を受けているか、受けたことのある方。大学院生も受講可。

講師：中村伸一・渡辺俊之・野末武義・岩井昌也・北島歩美

開催期間：平成30年(2018年)6月～平成31年(2019年)3月、月1回  
原則第4土曜日、午後2時～5時 全10回

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：13名

企画者：中村伸一

担当委員：中村伸一

## (5) 小寺臨床講読セミナー

### —現代クライン派の系統的理解(第Ⅳ期)—: 2. クラインからクライン派へ

目的: メラニー・クラインは、現代の精神分析の重要な源泉の一つであり、優れた直観と観察に基づいて多くの独創的な見解を展開しました。第Ⅳ期2年目の本年度は、1950年代からクラインの死を超えて発展し続けたクライン派の流れを、クライン派の代表的な研究者ごとに取り上げました。邦訳のある文献も含めて、初学者の方にも参加しやすいようにしました。経験ある方が、再度勉強する機会にもなります。

対象: テキストを読んで毎回参加できる方。年に何回かレジュメ作成・発表を担当。

講師: 福本 修・平井正三(特別講師)

開催期間: 平成30年(2018年)4月以降の第2金曜、原則として午後7時~10、全12回

開催場所: 小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数: 17名

企画者: 福本 修

担当委員: 福本 修

## (6) 小寺臨床講読ワークショップ

### —フロイトの系統的理解(V期)—: 1. 精神分析の発見(1895-1910)

目的: 2006年の開講以来、第V期を迎えました。精神分析において、フロイトの著作は今も基本であり、発想の源泉です。しかし系統的に読み進めるのは、容易ではありません。特に黎明期の精神分析は、19世紀の科学用語を引き継ぎ、臨床設定を定めていく途上にあるので、個人的に読んでフロイトの紆余曲折を辿ることは、案外困難です。グループで読み進めることで理解は深まり、初学者の方も経験ある方も、新鮮なフロイトに触れることができるでしょう。本ワークショップでは、参加時間の中でフロイト読解を体験し、精神分析の〈現場〉へと赴くことを目指します。2018年度は、第V期の初年度となります。3年間で全体をカバーします。

対象: テキストを読んで毎回参加できる方。臨床経験の多寡は問いません。

講師: 福本 修

開催期間: 平成29年(2017年)4月以降の第三金曜、午後7時~10時、全12回

開催場所: 小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数: 18名

企画者: 福本 修

担当委員: 福本 修

## (7) 精神分析的な心理療法セミナー (第10回)

目的: 精神分析的な心理療法の事例検討会です。事例を通して、精神分析的な考え方や臨床のリアリティを共有し、理解と技法を深めていきたいと思えます。

本年度のセミナーは、原則として月一回、年間11回開催の予定ですが、日曜日を利用して一日に2事例を検討する特別セッションもあります。助言者として講師をお招きしますが、参加者が助言を担当することもあり、また毎回、順番に司会を担当していただきました。

対象: 中堅以上の心理療法家で、十分な臨床経験と研修歴をお持ちの方

講師：中村留貴子、深津千賀子、妙木浩之、北山修 他  
開催期間：平成 30 年（2018 年）4 月～平成 31 年（2019 年）3 月  
原則として、第一金曜日、午後 7 時 30 分～10 時、全 10 回  
日曜日などに特別セッションを設けることもある。  
開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム  
参加人数：10 名  
企画者：中村留貴子  
担当委員：岡野憲一郎

## （8）臨床家のための、産業メンタルヘルス実践セミナー（第 6 回）

### ①ベーシックコース

目的：このセミナーでは、産業メンタルヘルス領域で働くための実践能力の養成を目的とします。ベーシックコースでは、精神力動的な考え方に基づいたメンタルヘルス支援プログラム（KEAP：キープ KEIO Employee Assistance Program）について紹介します。KEAP は 2009 年から本セミナーの企画者である白波瀬が企業と共同開発を行い展開しているプログラムです。その実践活動に基づき、産業メンタルヘルスに関する、精神分析のおよび力動精神医学的な知見を蓄積しています。それは、高い臨床能力と柔軟なコミュニケーション能力、および全体を見渡す俯瞰力とバランス感覚などです。これらの知見を、講義とシナリオ・ロールプレイを通して学びます。なお、今年度は参加しやすさを考慮して、内容をコンパクトにし 5 回シリーズとしました。

対象：臨床心理士、精神科医、産業医、産業看護職、精神保健福祉士等、守秘義務を守ることのできる臨床家

講師：白波瀬丈一郎（精神科医：慶應義塾大学）、佐渡充洋（精神科医：慶應義塾大学）、三浦有紀（臨床心理士：慶應義塾大学）、三柴丈典（法律家：近畿大学）敬称略

開催期間：平成 30 年（2018 年）10 月～平成 31 年（2019 年）2 月まで月 1 回、全 5 回  
13：00～17：00

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：9 名

企画者：白波瀬丈一郎

担当委員：白波瀬丈一郎

### ②アドバンストコース

目的：このセミナーは、産業メンタルヘルス領域で働くための実践能力の養成を目的とします。アドバンストコースは、ベーシックコース修了者を対象としたコースで、事例検討を通して、産業メンタルヘルスの考え方や関わり方を学びます。事例検討は、精神分析のおよび精神力動的な考え方に基づいたメンタルヘルス支援プログラム（KEAP：キープ KEIO Employee Assistance Program）の実践活動で得られた知見に基づいて行います。しかし、検討対象とするのは産業領域に限定しません。  
日々の臨床実践や現場で困っていることについても積極的に議論しました。

対象：2017 年度までの「臨床家のための、産業メンタルヘルスセミナー」、「臨床家のための産業メンタルヘルス実践セミナー」修了者

講 師：白波瀬丈一郎（精神科医：慶應義塾大学）、三浦有紀（臨床心理士：慶應義塾大学）  
開催日時：平成 30（2018 年）4 月から平成 31 年（2019 年）2 月まで月 1 回第 2 日曜日、  
全 10 回。9 月は休み。10：00～12：00  
開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム  
参加人数：15 名  
企 画 者：白波瀬丈一郎  
担当委員：白波瀬丈一郎

#### （9）精神分析志塾（第 4 回）

目 的：中堅臨床家の方たちが上級者に進展されるための協働を意図して、本志塾を昨年開講いたしました。限定されたメンバーによるクローズド・ワークショップの形態を取ります。精神分析や精神分析的な精神療法/心理療法での臨床力強化を図りながら、分析的経験から濃く学び、創造力を高めることを目指しました。

対 象：中堅臨床家

講 師：松木邦裕

開催期間：平成 30 年（2018 年）4 月～平成 31 年（2019 年）3 月 全 11 回  
10：30～15：50

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：18 名

企 画 者：松木邦裕

担当委員：奥寺 崇

#### （10）「子どもの心の発達を学ぶ—基本および現代的視点—」（第 3 回）

目 的：2018 年度は、児童期、及び思春期青年期の人たちの心の発達について、精神分析の知見から考え、学ぶことに加えて、発達心理学からも学んでいきます。

精神分析的な心理療法が専門の平井正三先生には児童期、そして飛谷渉先生には思春期青年期の心の発達について、先生方の精神分析的な心理療法の経験を通して得られた現代的な知見を中心に講義していただきます。発達心理学が専門の遠藤利彦先生には、乳幼児の発達心理学の知、及び最新の知見、そして先生の幅広い経験を通して見えてくる乳幼児や親子関係について講義していただきました。各回、討論者は木部則雄先生、福本修先生、生地新先生です。

対 象：子どもや思春期青年期の心理療法に携っている臨床家、近接領域の専門家、大学院生

講 師：木部則雄、福本修、脇谷順子、生地新、平井正三、飛谷渉、遠藤利彦

開催日時：平成 30 年（2018 年）5 月 20 日（日）、7 月 8 日（日）、10 月 21 日（日）  
13：00～17：00

開催場所：第 1 回のみ TKP 市ヶ谷カフエールセンター、2 回、3 回小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

定 員：27 名

企 画 者：脇谷順子

担当委員：脇谷順子

### (1 1) 乳幼児観察セミナー (第 3 回)

目 的：本セミナーの前半では、乳幼児観察を英国で経験した講師が乳幼児観察に関する講義を行ってもらい、後半には 2 年間の乳幼児観察を終了した人から生き生きとした乳幼児観察の体験を語ってもらいました。

対 象：乳幼児観察の終了者、乳幼児観察に関心を持つ人であれば、職種は問いません。

講 師：木部則雄・鈴木龍・脇谷順子

開催日時：平成 30 年 (2018 年) 9 月 17 日 (祝・月)、平成 31 年 (2019 年) 3 月 17 日 (日)  
13:00~17:00

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

定 員：29 名

企 画 者：木部則雄

担当委員：木部則雄

### (1 2) 自我心理学臨床セミナー第 1 期— (3)

目 的：小此木啓吾をはじめ、精神分析の初期の先達に影響を及ぼした自我心理学の基本について再検討するためのセミナーです。アンナ・フロイトから現代の自我心理学者ポール・グレイやフレッド・ブッシュ、あるいはフォナギーらの仕事までの流れを確認するために、自我心理学の代表的な論文をひとつずつ読み、その後、その治療者の業績を解説していく。また日本に治療構造論を導入したマスタークラスの臨床家とディスカッションをする、それぞれの自我心理学的な精神分析の考え方を確認していくというセミナーです。邦訳した論文の輪読は参加者が、文献の紹介とセラピストの解説は妙木が担当する。それぞれの臨床的な発想について参加者が対話する形になります。今期はグリーンソン、サンドラー、マートン・ギル、ポール・グレイ (講師として岡田先生)、そしてジェイコブソン、そして中村留貴子先生の 6 人を中心に、現代の自我心理学への橋渡しのお話をしました。

対 象：自我心理学に興味があり、臨床を行っている方 (経験の多寡は問いません)

講 師：中村留貴子、岡田暁宜、妙木浩之

司会・進行：妙木浩之

開催日時：平成 29 年 (2017 年) 9 月以降の第 4 日曜日 午前 10 時~12 時 全 6 回  
(1 月はお休み)

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：16 名

企 画 者：妙木浩之

担当委員：岡野憲一郎

### (1 3) ビデオ録画セミナー ビデオ録画による初回面接 (2 回)

目 的：本セミナーは、精神分析的な心理療法家を目指す臨床家たちのために、ビデオによる訓練とその連想を広げる作業を実践するものです。シニアのセラピストの録画記録を使ってビデオに登場する患者役および治療者役を講師として参加してもらってそれぞれの場面で考えたことをディスカッションしながら、妙木が連想を記録して

それについて解説するという形をとりました。

対 象：ビデオによる訓練に興味があり、臨床を行っている方（経験の多寡は問いません）

講 師：妙木浩之、東 啓梧、小林陵、飯島典子、豊福伸行、筒井順子、重宗祥子、  
天野雄一、千葉ちよ、坂本優子、熊谷秀樹

司 会：加茂聡子

解 説：妙木浩之

開催日時：7月30日、8月20日、10月15日、11月19日、12月17日、1月21日

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

参加人数：19名

企 画 者：妙木浩之

担当委員：岡野憲一郎

## 2. 単発セミナー

### (1) 精神分析—医学生・研修医セミナー（第11回）

目 的：臨床医をめざす医学生・研修医に、人間の心を深く見つめる精神分析の世界について、充実した内容をコンパクトに解説するものです。

開催日時：平成30年（2018年）7月15日（日）・16日（月・祝）

開催場所：小寺記念精神分析研究財団 セミナールーム

講 師：北山修・白波瀬丈一郎・高野 晶・藤山直樹・池田暁史・小林要二

対 象：初期/後期研修医、医学部5・6年生を優先

参加人数：医学生10名 医師6名

内 容：レクチャーおよび分析家オフィス見学ツアー

企 画 者：池田暁史

担当 委員：池田暁史

### (2) 関係性精神療法セミナー(第8回)

#### 「関係精神分析入門ふたたび」

目 的：このセミナー・シリーズは、2011年に第1回が開かれ、今年で第8回を迎える。関係精神分析（関係論、関係性理論、関係性精神療法）は対象関係論、サリバンプ、コフト派、間主観性理論、自我心理学などを包括的に含み、現代アメリカの精神分析の新しい流れを総括するものである。今年は、原点に立ち戻り、「関係精神分析入門ふたたび」と題して開催した。関係精神分析の考えはすでに馴染んでおり、さらに基本を見直したいという方はもちろん、関係精神分析を近づきにくいと感じている方、理解しにくいと感じている方、疑問を感じている方など、様々は方々に参加していただきたく開催いたしました。

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方

開催日時：平成30年（2018年）7月22日（日）午前10時～午後3時

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方

発 表 者：富樫 公一（甲南大学）、吾妻 壮（神戸女学院大学）、岡野憲一郎（京都大学）

司 会：岡野憲一郎

参加人数：29名

企 画 者：岡野憲一郎

担当委員：岡野憲一郎

### (3) 『タヴィストック・セミナー』(第11回)

#### 英国精神分析臨床の発展を考える

##### —英国精神分析協会精神分析家 阿比野宏先生をお迎えして—

目 的：これまで本企画タヴィストック・セミナーでは、主に乳幼児から思春期・青年期までの主題を取り上げてきました。今回は、イギリスの精神分析協会で、日本人で初めて訓練を修了し資格を取得された阿比野宏先生をお迎えして、精神分析の真髄とはどのような経験の集積なのかをお話しいただいた。

開催日時：平成30年(2018年)12月23日(日)午後1時～5時

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

対 象：精神分析に興味があり、臨床実践を行っている方(臨床経験の多寡は問いません)

講 師：阿比野宏(英国精神分析協会)

司 会：木部則雄・福本 修

討 論：小倉 清

参加人数：59名

企 画 者：福本 修

担当委員：福本 修

### (4) 学際的ワークショップ「精神分析の知のリンクにむけて」

#### —第3回『精神病は、いま』—

目 的：第三回の学際的ワークショップでは、精神病を巡って、精神分析と隣接した知である精神病理学との対話を試みました。今回はメインゲストとして、『「分裂病」の消滅』、『双極Ⅱ型障害という病』、『自閉症スペクトラムの精神病理』などの著作で、常に時代を象徴する病に立ち向かい、鋭利な精神病理学的思考を繰り広げてきた内海健氏をお招きしました。精神分析の側からは、精神病患者に対する分析的治療経験が豊富な松木邦裕氏、本ワークショップの企画者の十川幸司が論点を提示しました。指定討論者には、日本でのニューロサイコアナリシス研究を牽引している久保田泰考氏と本ワークショップのコーディネーターの一人である藤山直樹が担当しました。

開催日時：平成30年(2018年)10月8日(日)13:00～17:00

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

参加対象：精神分析に関心をもつ方はどなたでも参加できます。

発 表 者：内海 健(東京藝術大学)

：松木邦裕(精神分析オフィス)

：十川幸司(十川精神分析オフィス)

司 会：藤山直樹(個人開業、上智大学)

討 論：久保田泰考(滋賀大学保健管理センター)

：藤山直樹



参加費：5000円（学生は3000円）

参加人数：79名

企画者：十川幸司・藤山直樹

担当委員：十川幸司

### （5）心理臨床家のための力動的精神病理学入門 3

目的：今年「不安」を取り扱いました。不安障害をはじめ、精神病理の諸症状について、精神分析がどのように考えてきたか、精神薬理はどう考えるか、そして現代の精神医学・臨床心理学がどのように考えているか、といった主題を扱いました。精神分析・力動的精神医学の立場、精神薬理学の立場、力動的査定のための心理テストの視点から、そして力動フォーミュレーションの立場から考えました。精神分析的な立場からは岡田暁宜先生をはじめとして、精神薬理学の視点から渡邊衡一郎先生、心理テスト査定視点から吉村聡先生、それぞれの専門家がさまざまな精神障害に伴う「不安」という症状について講義しました。

開催日時：2018年3月21日（祝・水）

開催場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

参加対象：臨床心理士・精神科医

講師：妙木浩之・加茂聡子・岡田暁宜・渡邊衡一郎・吉村聡・飯島典子

参加人数：70名

企画者：妙木浩之

担当委員：妙木浩之

### （6）力動的家族臨床入門（新規）

目的：日常臨床では、かなりの数のケースについてその家族と接することが多いのが現実です。個人療法のみをおこなおうとしても家族が介在することでその実施に混乱を来したりすることは、創始者フロイトがまず出くわした困難でもありました。特に思春期青年期のクライアント、子どもの問題、親からの相談依頼などでは、個人療法ベースの臨床では対応が困難なことが歴然としています。ではどのような対応が望まれるのでしょうか？そのためには背景にある家族の関係性を力動的にアセスメントし、関係性への介入を学ぶ必要があります。今回は力動的家族臨床の考え方を紹介し、講師の実際の面接を紹介し、解説を加えることで、その方法の基本的な考え方を理解していただくことを目的としました。

開催日時：平成30年（2018年）4月22日（日）

開催場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

講師：中村伸一

参加人数：18名

参加対象：力動的家族臨床に興味のある方、職種は問いません。大学院生も参加可能です。

企画者：中村伸一

担当委員：中村伸一

### Ⅲ出版・広報事業

ホームページの充実、メールによる情報発信の準備

担 当：福本 修